

# 注 意 報

農技セ第7515号  
平成30年8月6日

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成30年度農作物病害虫発生予察情報について

平成30年度農作物病害虫発生予察注意報第3号を公表したので送付します。

## 平成30年度病害虫発生予察注意報第3号

平成30年8月6日  
徳 島 県

サツマイモ栽培地帯において、7月第4半旬から7月第6半旬のフェロモントラップ定点調査で、シロイチモジヨトウの雄成虫誘殺数が平年に比べて多く推移していることから、今後、サツマイモで幼虫による被害の拡大が予想されるので、注意報を発令します。

現地においては発生状況に注意し、適切な防除指導をお願いします。

作物名：サツマイモ  
病害虫名：シロイチモジヨトウ

- 1.発生地域 県北東部のサツマイモ栽培地帯
- 2.発生時期 8月上旬～
- 3.発生程度 多(前年並, 平年より多い)

#### 4.注意報発令の根拠

- (1)フェロモントラップ定点調査(サツマイモ栽培地帯4地点)において、7月第4半旬より誘殺数が急激に増加し、7月第4半旬～7月第6半旬の誘殺数は1,007頭と平年(573頭)の約1.8倍となった(図1)。
- (2)7月30日に実施したかんしょ現地16圃場の巡回調査では、食葉性害虫による被害発生圃場率が100%、葉の被害度が17.1と、平年(97.9%, 17.5)並の発生である。なお、シロイチモジヨトウの寄生確認圃場率は、6.3%、50cm×50cm×4地点内の生息虫数は0.1頭と、平年(5.9%, 0.3頭)並である。
- (3)高松地方气象台が8月2日に発表の1か月予報では、気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は平年並か多く、特に期間の前半は気温がかなり高くなると予測されており、発生助長的な気象条件である。

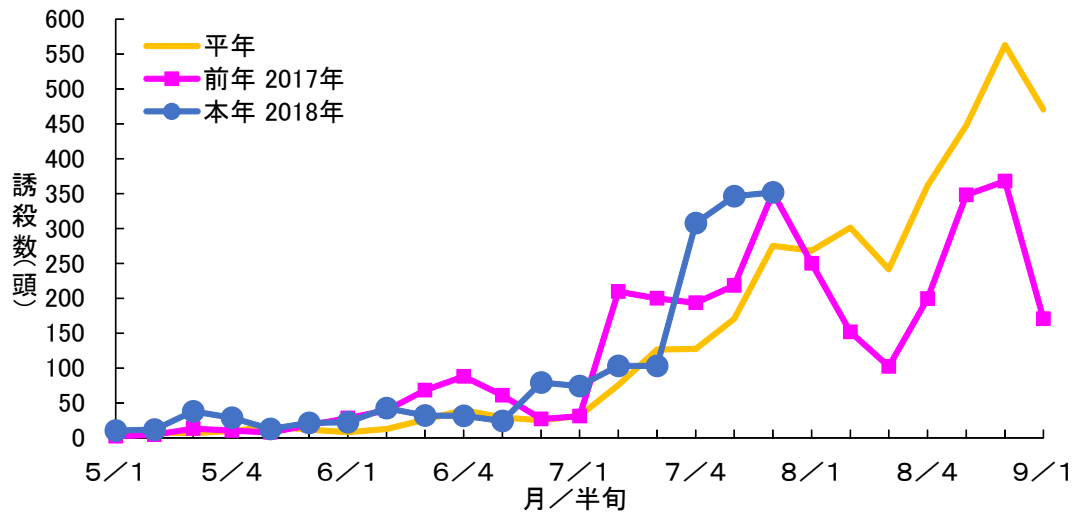


図1 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(サツマイモ圃場)  
\* 徳島市, 鳴門市, 松茂町の4地点平均

## 5. 生態・形態・被害作物等

### (1) 生態

年間の発生回数は5～6回。幼虫の発生量は8～10月に最も多くなる。25℃での各生育ステージの期間は、卵が3日、幼虫が17日、蛹が9日で、1世代に要する期間は約30日程度である。

### (2) 形態

卵：雌は数十～数百粒からなる卵塊を数回に分けて産卵し(1頭当たり平均1,000粒), 卵塊は黄白～灰白色の鱗毛で覆われる。

幼虫：幼虫の体色は若齢～中齢は淡緑色であるが, 老齢幼虫は淡緑～褐色と個体変異が大きい。老齢幼虫の体長は30mm程度で, 土中で蛹化する。

成虫：前翅長は12mm程度, 前翅は灰褐～黄褐色で, 比較的幅が狭く, 前翅の中央部にくすんだオレンジ色の円形の斑紋がある。

### (3) 寄主植物

広食性で, 50種類以上の植物を加害する。

いも類

豆 類：ダイズ, インゲンマメなど

野菜類：ネギ, キャベツ, ハクサイ, ブロッコリー, ダイコン, レタス, ホウレンソウ, キュウリ, スイカ, トマト, ピーマン, イチゴなど

花き類：カーネーション, 宿根カスミソウ, キク, トルコギキョウ, スターチスなど

### (4) 被害状況

幼虫が葉裏から表皮を残してかじり, 白変葉になる。孵化後の幼虫は集団で葉裏を食害するが, 成長に伴い分散, 食害量も増加し, 被害が拡大する。



図2 シロイチモジヨトウ幼虫



図3 シロイチモジヨトウ成虫

## 6. 防除法等

- (1) 幼虫が大きくなると薬剤が効きにくくなるので、若齢幼虫期に防除する(表1)。
- (2) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに捕殺する。
- (3) ハスモンヨトウ等, その他の鱗翅目害虫も発生しているので, 同時防除する。
- (4) 防除等の詳細については, 徳島県植物防疫指針を参照するとともに, 薬剤の使用に当たっては, 必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表1 かんしょ(サツマイモ)でシロイチモジヨトウに登録のある農薬(登録内容:2018年8月6日現在)

農薬の名称	希釈倍数	使用時期	使用回数	系統	IRACコード <sup>※</sup>
アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	マクロライド系	6

※IRACコード

殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のこと。本コードが異なる薬剤を使用することで,同一系統の薬剤の連用を防ぐことが可能である。